

# 「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 日吉台小学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

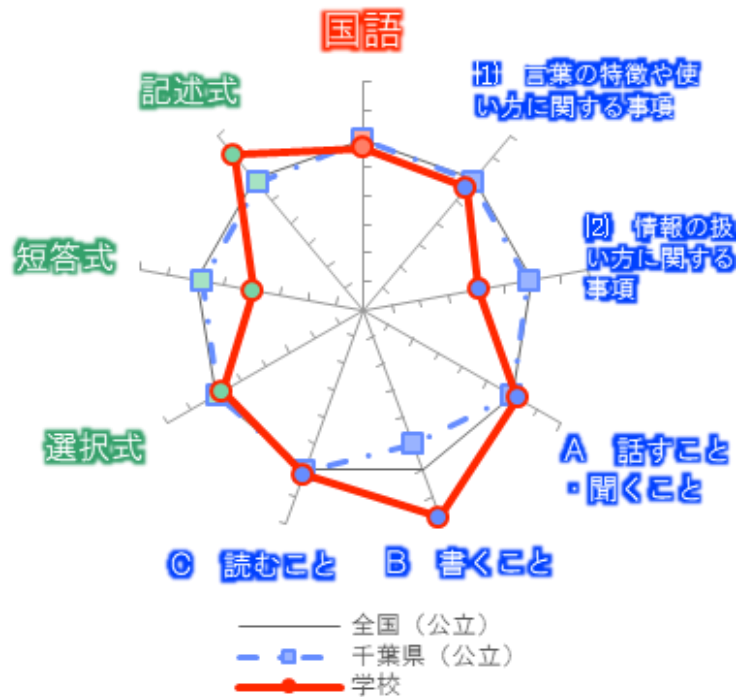
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



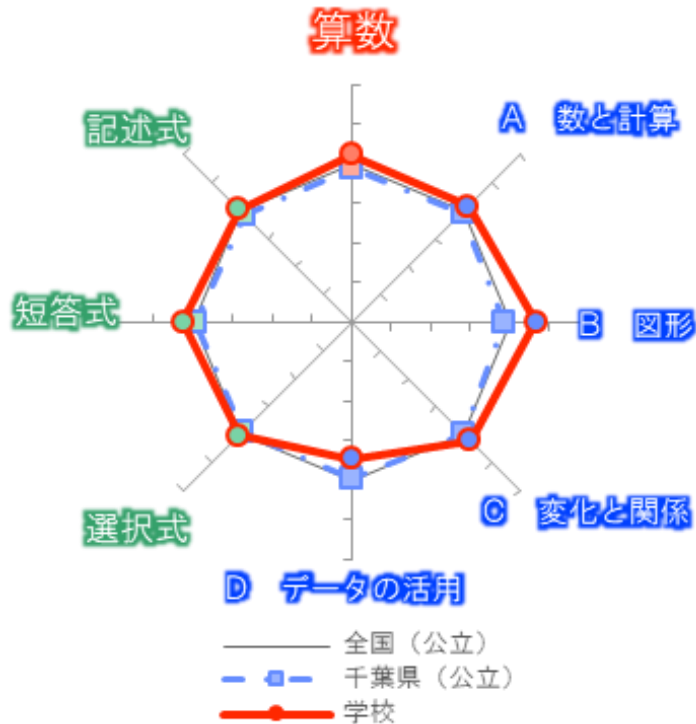
#### 【特徴と現状】

- 目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約したり、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめたりすることについての問題では、高い正答率が得られました。「読む」力は身に付いていると考えられます。
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたり、日常よく使われる敬語を理解したりする力も身に付いています。
- 漢字の書き取りは、全国や県の平均点を下回っていましたが、「比（くら）べる」の正しい送り仮名を選ぶことに関してはやや上回っていました。
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使えることについては課題が見られました。

#### 【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習などを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、学習した漢字を短作文等で積極的に活用する場面を設けて、漢字を書き取る力が一層定着するよう努めてまいります。
- 読む力は定着していることがわかりました。今後も、目的に応じて必要な情報を見付けることができるよう、児童の実態を見ながら、発展的な資料を扱った読み取り活動も取り入れてまいります。
- 図などによる語句と語句との関係の表し方については、各教科の授業において語句を結び付ける場面を設定し、どのように表せば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。また、教師による添削も行い、きめ細やかな指導に努めてまいります。

## 算 数



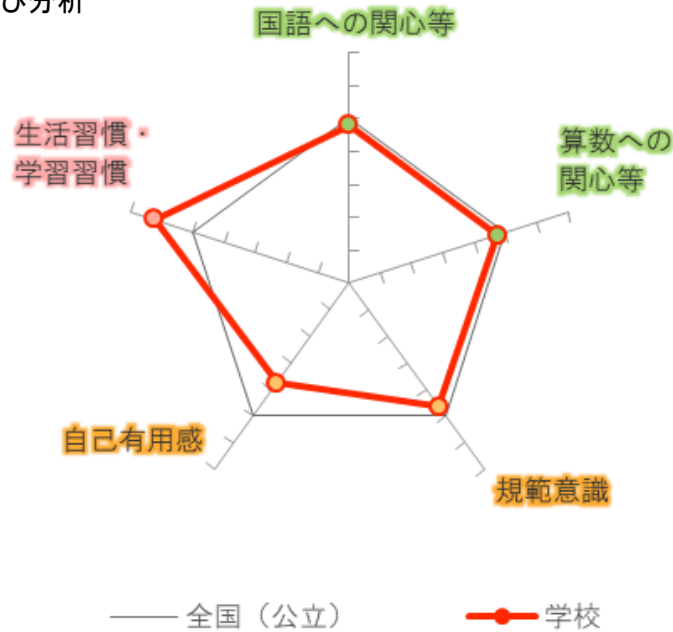
### 【特徴と現状】

- 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問題では、高い正答率が得られました。事象を整理し、分析の後に式に表す力は身に付いていると考えられます。
- 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をする力が身に付いていることがわかりました。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることについて課題が見られました。
- 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題が見られました。

### 【改善方策等】

- これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習等を通して、基礎・基本的な計算力が身に付くように努めてまいります。
- 問題文から情報を的確に読み取り、それを式に表す力は身に付いています。今後は、より複雑な情報を読み取るなどの発展的な学習も取り入れ、さらなる活用能力の向上を図ってまいります。
- 計算のきまりについては、理解をさらに深めていく必要があります。計算の順序の確認や、加法や乗法の計算法則のしくみが理解できるよう、ドリル学習等の活動を充実させてまいります。
- グラフを読み取る力を伸ばすことができるよう、求めたい事柄について表等を使ったりICT機器を活用して視覚的な支援を行ったりする等、授業展開を工夫してまいります。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」という児童の割合は、全国平均よりも高いことが分かりました。
- 「学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で「平日30分以上」「土日1時間以上」と回答した児童の割合は、全国平均よりも平日で7.6ポイント、土日で18.2ポイント上回っていました。家庭学習に取り組んでいる児童が多いことが分かりました。
- 「読書は好きですか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を14.8ポイント上回っていました。学校図書館司書との連携により、読書に興味をもつ児童が多いことが分かりました。
- 「英語の勉強は好きですか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を19.7ポイント上回っていました。英語に対する興味・関心が高い児童が多いことが分かりました。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」で肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均よりも低い傾向にありました。自分が存在価値のあるものと実感させる場面を充実させていく必要があります。

### 3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを様々な方法を用いて表す活動を一層充実させ、児童の実態に応じて発展的な問題を扱ったり、ICT機器を活用したりして、さらなる学力向上を目指すとともに、自他を大切にし、自己の有用性を感じられる授業改善を継続してまいります。

家庭での規則正しい生活習慣が身に付いている児童は、学力も高い傾向にあります。今後も、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣について、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。